

令和3年度佐賀大学研究者国際交流支援事業報告書

令和 4年 2月 24日

国際交流推進センター長 殿

下記のとおり報告します。

1. 国際研究集会名	世界遺産に向けたチェンマイ歴史地区の保存活用研究セミナー		
2. 事業責任者 (申請者)	三島伸雄	3. 所属・職名	理工学部・教授
4. 開催期間	令和 4年 2月 22日 ~ 令和 4年 2月 23日		
5. 参加者数 ※参加者名簿(様式任意)を添付	参加者数(概数) <u>74</u> 名 うち、 <u>外国人数 51名</u> 、 <u>学生数 24名</u> (修士課程以上 <u>8名</u>)		
6. 支援金額	金額 <u>200,000</u> 円		
7. 招待講師	所属 <u>東京大学</u> 職名 <u>名誉教授</u> 氏名 <u>渡邊 定夫</u> 所属 <u>國學院大学</u> 職名 <u>教授 (東京大学名誉教授)</u> 氏名 <u>西村 幸夫</u> 所属 <u>National Committee on Rattanakosin and Old Towns Conservation.</u> <u>ラタナコサン・歴史都市保全国立委員会</u> 職名 <u>准教授・博士</u> 氏名 <u>Assoc.Prof. Dr.Pimolsatean Yongthanit</u> 所属 <u>チェンマイ大学 社会科学研究所</u> 職名 <u>准教授 Assoc.Prof.</u> 氏名 <u>Woralun Boonyasurat</u> 所属 <u>チェンマイ大学 建築学部</u> 職名 <u>助教 Asst.Prof.</u> 氏名 <u>Komson Teeraparbwon</u> 所属 <u>チェンマイ大学 建築学部</u> 職名 <u>助教 Asst. Prof.</u> 氏名 <u>Worrasit Tantinipankul</u>		
8. 謝金支出額	金額 <u>187,000</u> 円		
9. 国際研究集会の内容	チェンマイは、2015年、その歴史地区がUNESCO世界遺産暫定リストに掲載された。タイでは、遺跡ではない、初めての生きた歴史的遺産「ラーンナー王朝以降の独自の形式の仏教や文化」として、2025年の世界遺産正式登録に向けた取り組みを行っている。生きた歴史的遺産、すなわち、歴史的町並み等の保存と活用については、我が国は多くの経験を持っている。1960年代から始まる町並み保存の取り組みは、1975年の文化財保護法改正による重要伝統的建造物群保存地区の導入、日本初の世界遺産「法隆寺地域の仏教建造物」等の登録を契機に採択された「奈良文書」などに展開		

され、我が国だけでなく、世界における遺産の性格や文化的文脈などを踏まえた文化の「多様性」の保存と活用に大きな役割を果たしてきた。そのような経験は、日本と同様に木造建築が集積している生きた歴史的町並みとして世界遺産を目指すタイ・チェンマイに多くの知見を与えてくれるものと期待されている。

本フォーラムは、その選定に向けたタイ専門家コアチームのメンバーと、チェンマイ歴史地区の世界遺産選定に向けた現状と将来について議論を行った。我が国からは、奈良県・今井町などの歴史的景観の保存に尽力されてきた渡邊定夫・東京大学名誉教授をアドバイザー、そしてユネスコ世界遺産の選定メンバーや ICOMOS 調査委員を務められている西村幸夫・國學院大学教授（東京大学名誉教授）ならびにヨングタニット・ピモンサターン・タマサート大学准教授を講演者として迎え、タイと日本の若手研究者によるチェンマイ歴史遺産に関わる研究発表を交えて、チェンマイ歴史地区の世界遺産選定に向けて、今どのような課題を抱えており、将来どのようにしていくべきかについて疑問をぶつけ、意見交換を行った。

渡邊教授からは、寺内町である今井町とチェンマイとの共通性の指摘を受け、宗教都市、宗教と商業、観光への展開、バッファゾーンに設定されている部分の巡礼地としての一体的保全について、指摘を受けた。西村教授からは、京都との比較の中で、世界遺産としての物語を持つことと、総合的な都市計画を設定することの重要性を指摘された。Yongtanit 先生からは、タイにおける歴史的環境保存の制度的な状況を踏まえ、その問題点について指摘があった。

後半のスピーチとして、Woralun 先生からは、これまでのチェンマイにおける世界遺産に向けた取り組みと現状について講演があった。Komson 先生からは、チェンマイにおける世界遺産選定にむけた申請書とその課題について説明があった。Worrasit 先生からは、バッファゾーンにおいても、単にバッファゾーンではない価値があるという主張があった。

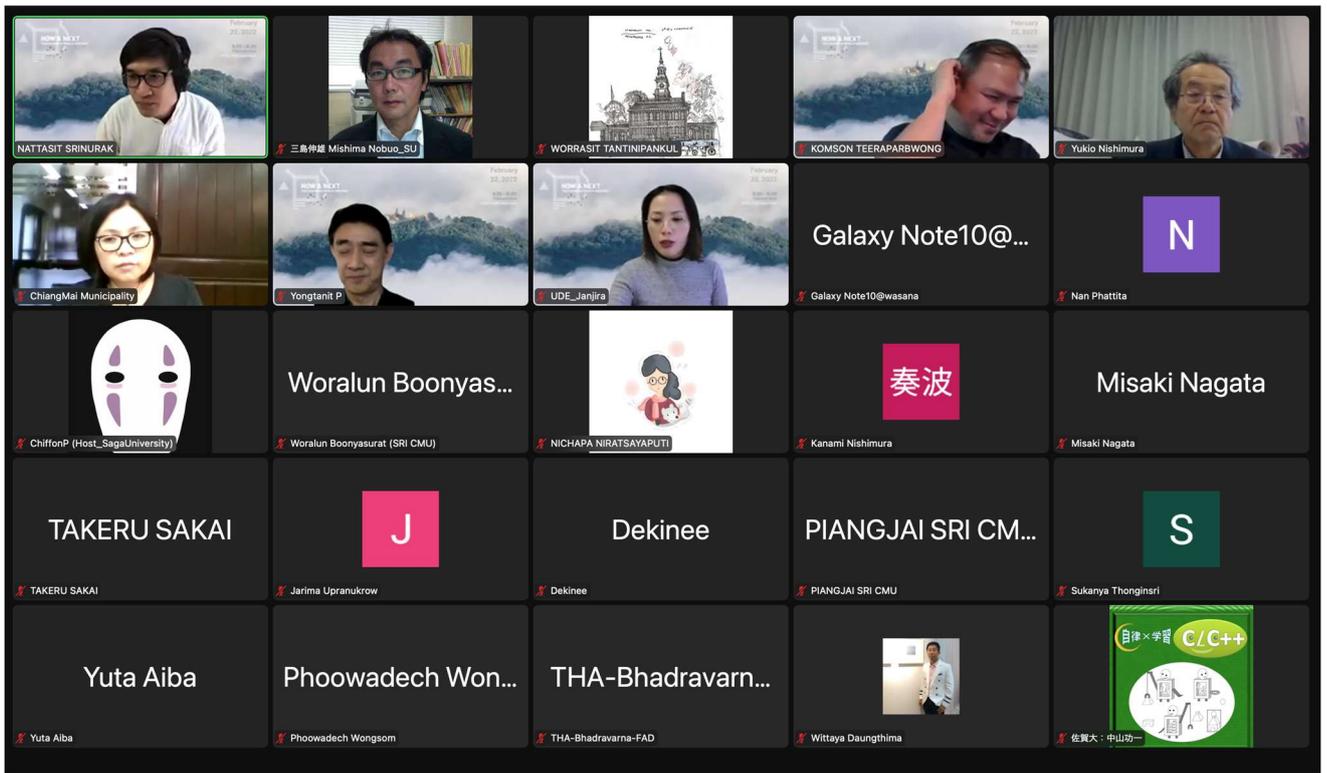
佐賀大学からは、学生3名が研究発表を行なった。平野奏波さんからは、気候変動も考慮した大雨災害の可能性を踏まえ、外国人観光客に対する避難対策の必要性に関する研究が発表された。永田美咲さんからは、歴史地区に位置する市場の火災時における避難問題に関する研究が発表された。Janjira Sukwai さんからは、歴史地区からバッファゾーンへの眺望の保全問題に関する研究成果が発表された。

これらを受けて、パネラー全員で、チェンマイの世界遺産選定に向けた課題と今後に向けた取り組みのあり方について、意見交換をおこなった。特に、世界遺産としての卓越した普遍的価値とその構成遺産の位置付けを明確にすべきこと、生きた歴史的都市としての危機管理計画について、意見を共有することができた。

10. 特記すべき成果・波及効果

世界遺産を目指すタイ国チェンマイに対して、我が国では唯一貢献している佐賀大学のプロジェクトをアピールし、かつ、文化庁審議員を務めている渡邊定夫東京大学名誉教授、並びに ICOMOS 世界遺産専門委員や ICOMOS Japan のメンバーである西村幸夫國學院大学教授に、チェンマイが世界遺産を目指すにあたって気になるポイントなどを指摘していただき、タイ側にとっても参考になる情報提供と意見交換を行うことができた。両教授は、チュラロンコン大学やアジア工科大学の都市デザインコース設立に関与した経験もあり、文化財関係においてもタイでも著名な先生である。そのため、タイ側からの関心は非常に高く、インパクトの高いイベントであった。タイ国からは、大学教員や学生だけでなく、行政関係者や建築実務家等も数多く参加しており、世界遺産選定に向けたチェンマイの課題について相互の認識を深めることができ、タイへの国際貢献ができた。タイのパネリストからも、佐賀大学ありがとうというコメントが多くあり、国際的・学術的・社会的な波及効果は高かったと考えられる。

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていただいても構いません。



Sacred City of Chiang Mai

2015

Monuments, Sites and Cultural Landscape of Chiang Mai, Capital of Lanna

2021

Chiang Mai, Capital of Lanna: The Historic Town and Its Associated Sacred Sites

2014

2015

